

ID <sup>注1)</sup>	101201	公開レベル <sup>注1)</sup>	B	保管形式 <sup>注1)</sup>	電子	保管場所 <sup>注1)</sup>		前回ID	011201
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	----	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	平成22年度 白神山地世界遺産地域実態把握調査報告書							発行年月/報告年月	
								2011年	2月
								資料形式 <sup>注2)</sup>	報告書

調査機関	東北森林管理局	委託機関	社団法人 日本森林技術協会
------	---------	------	---------------

調査開始年	2010年	8月	調査期間	2010年	8月	～	2011年	2月
-------	-------	----	------	-------	----	---	-------	----

調査頻度 <sup>注2)</sup>		調査時期 <sup>注2)</sup>	夏	—	—
---------------------	--	---------------------	---	---	---

エリアの計画	2012年3月 策定	区分 <sup>注2)</sup>	Ⅲ	大区分 <sup>注2)</sup>	1	小区分 <sup>注2)</sup>	(2) (3)
--------	------------	-------------------	---	--------------------	---	--------------------	---------

調査箇所・範囲 <sup>注3)</sup>	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域     緩衝地域     周辺地域

GPS等の位置データあり

備考欄参照

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

■調査目的  
平成13年度に「指定ルート」の実態把握調査を実施した結果、入山過多等による大きな問題は認められなかったが、前回調査から9年が経過し、禁漁区域内での釣りやたき火等の違法行為の情報が寄せられ、入山者による植生への影響等が懸念されること、また、クマガラの森コース等の既設歩道についても歩道からの踏み出し等により、歩道周囲の裸地化や植生破壊の進行が一部で見受けられること、さらに2012年に予定されている世界遺産委員会への定期報告を見据え、入山による遺産地域への影響について、科学的な知見をとりまとめることも白神山地世界遺産地域の保全管理を適正に行う上で極めて重要である。  
このため「指定27ルート」等の実態を把握し、今後の白神山地世界遺産地域の適正な保全管理に資するため調査を実施する。  
世界遺産地域の概ね西側半分の地域に位置する指定ルートNo.1～15についてはすでに平成21年度に調査が実施され、本調査は残りの東側半分に位置する指定ルートNo.16～27について実施したものである。

■調査項目及び調査手法

- 核心地域内の指定ルート、既存歩道等の状況
- 横断面形状測定、歩道の荒廃状況の概要、荒廃による周辺植生の変化、里山植生の進入状況、キャンプ。たき火、魚釣りの状況等の把握
- 標識類  
標識類の種類、設置位置、現況
- 鳥獣類の生息状況  
各ルート上での野生生物のフィールドサインを探索

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

■ルート等の状況  
クマガラの森コース、暗門の滝コース、暗門ブナ林散策道、高倉森コースの既存歩道は、概ね良好に管理が行われており、特に支障なく歩行することができた。

■里植物  
既存の歩道、登山道の起点・終点やルート24のマガキ小屋跡及びルート26の関連ルートに位置する八方ヶ岳の雨量観測所ではオオバコの生育密度がやや高くなっている。  
既存の歩道沿いも入口からオオバコの生育が見られるが、入口から離れるにしたがって、その勢力は弱まる傾向が窺われた。

■キャンプ跡、たき火跡、樹木の伐採など  
キャンプ跡が最も多く確認されたのは赤石川流域で、本流沿いの他、ヤナタキノ沢、狐ヶ倉沢等で19箇所確認された。次いで大川流域では下流部の関連コースも含め4箇所、さらに横倉沢では3箇所、暗門川流域の西股ノ沢では関連ルートで3箇所のキャンプ跡が確認された。なお、摩須賀岳や青鹿岳に至る尾根・山腹箇所にはキャンプ跡は確認されなかった。  
樹木の伐採は、赤石川本流右岸、既設歩道クマガラの森コースの終点から約100m上流のキャンプ跡と赤石川本流・滝川合流点の二股から上流約150mのキャンプ跡の2箇所ですれ新しい痕跡が確認された。さらに赤石川の上流部や大川でもキャンプ跡において古い樹木の伐採跡がそれぞれ一箇所確認された。

■標識類  
標識、道標、テープ、ペンキ、落書き（ナタメ）、ゴミ等の工作・人工物については、既存の歩道・登山道ほど指定ルート内では見かけることが少なかった。  
標識類は、既存の歩道・登山道にあっては多数設置され、特に歩道の入口付近には集中していた。

問い合わせ	農林水産省 林野庁 東北森林管理局 〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号 TEL:018-836-2014 《原本（データ）の帰属について》
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。  
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。  
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

■鳥獣類の生息状況

今回の現地調査によって、哺乳類としてはツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、タヌキ、トウホクノウサギ、テン、イタチ、ヒメネスミ、ミズラモグラ、コウモリ類、ネスミ類の計11種が確認された。  
 今回の調査によって確認された鳥類としては、マガン、オンドリ、コガモ、ミサコ、ヤマドリ等の計30種が確認された。  
 赤石川、暗門川西股ノ沢、大川、横倉沢において、イワナの生息を確認した。

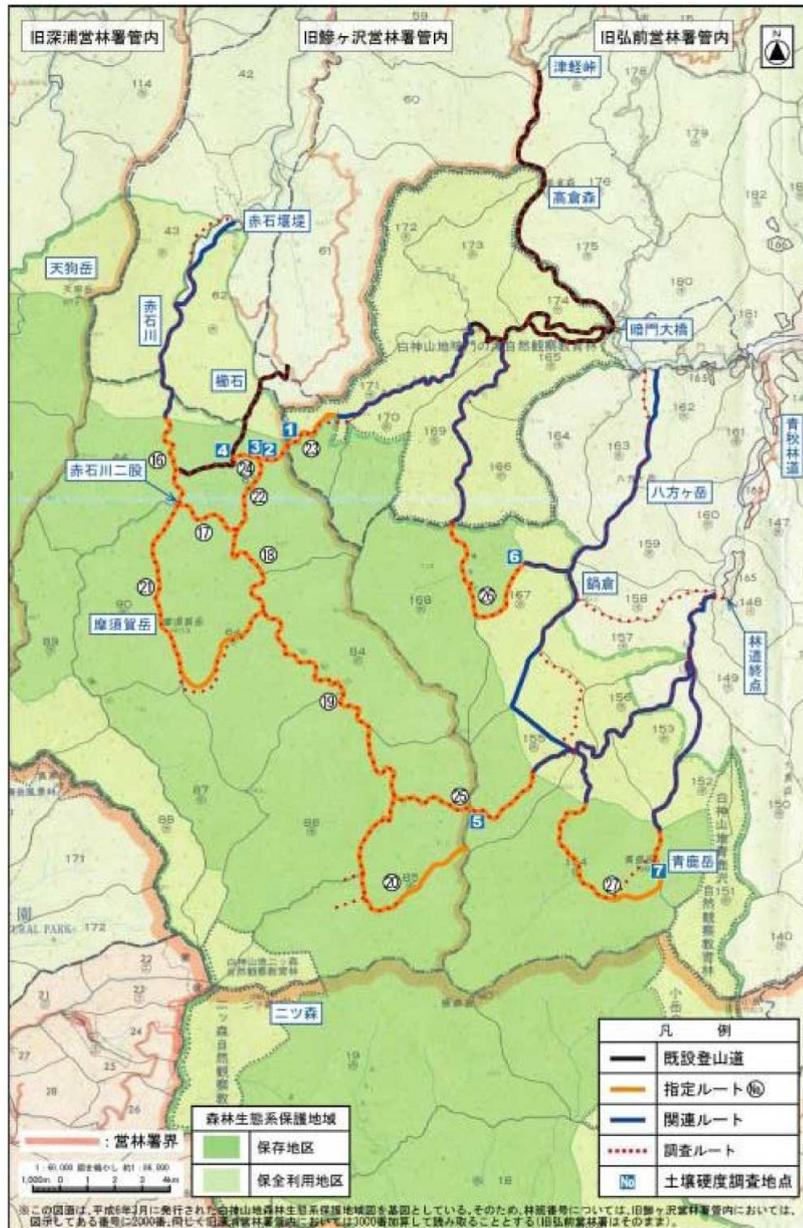


図1-1 調査ルート及び土壌硬度調査位置図